

平成 22 年度 茨城新聞社杯 第 38 回茨城県ミニバスケットボール選手権大会
男子決勝

チーム名		12		19		チーム名
くわがた	52	12	VS	17	57	みのり
		19		11		
		9		10		

みのり#10 のレイアップシュートでスタート。みのりは 2-1-2 ゾーン、くわがたは前から 2-1-2 ゾーンプレスのディフェンス。くわがたは#5 のアウトサイドからのシュートが効率よく決まるも、みのりは速攻で得点を重ね、ハーフオフenseではみのり#12 のポストプレイを軸にオフenseを組み立て、12-19 みのりリードで 1Q 終了。

2Q 序盤、みのり#7 のアウトサイドシュートで連続得点。更にみのり#7 は速攻も決めて 3 連続ゴール。くわがたがここでタイムアウト。しかしみのり#7 のリズムは崩れず、再開直後にもアウトサイドからのシュートを決める。くわがたもスチールからの速攻で引き離されまいとシュートを決めるが、くわがたの 2-1-2 ゾーンをみのりがインサイド、アウトサイドからそつなく崩して 24-36 とみのり 12 点差に引き離して前半終了。

3Q、くわがた#8 がシュートブロックとリバウンドでインサイドを堅守。オフenseではみのり各選手が持ち味を発揮して見事な化学反応がおき、#8 のインサイド、#5 の確立の高いアウトサイドからのシュートを演出。点差を縮めていく。43-47 の 4 点差までくわがたが追いついて 3Q 終了。

くわがたの流れを、みのりはしつこいディフェンスで 4Q は簡単に渡さない。くわがたもハーフからのディフェンスが固く、みのりはインサイドを攻めてもくわがた#8 のシュートブロックにあって攻めきれない。お互い、アウトサイドからのシュートと速攻があるものの、点差が縮まらない一進一退が続く中、残り 3 分、46-53 の 7 点差になったところでくわがたがタイムアウト。

くわがたは 5 点差にはするものも、みのりはそれ以上には点差を縮めさせず 52-57 で試合終了。みのりが関東スポ少と合わせて二冠を達成した。

(戦評) (県北地区) 緑川淳司